

1 a 除外 b 副作用 c 姿勢

2 A セ B が C 積 3 1 イ 2 ウ 3 エ 4 カ

4 ウ 5 (記述題) 6 一 失敗 二 成功

7 ワーキングメモリー (6 完答)

8 過去を s び取る 9 自分の s ていく

10 (記述題) 11 ア 12 イ (9 完答)

2 a 野生 b 出荷 c 蒸発

2 I みつばちは II お父さん 一

3 巣箱か s 集める 4 (記述題)

5 (3 完答) 1 ア 2 イ 3 ウ 6 エ 7 ウ 8 ア 9 エ (5 完答)

1 かのいやな記憶があれば、つぎの判断
 からのとき。に同じ失敗をしなくてすむ

10 マイナスの評価も記憶に残る (同意可)

2 4 がみつばちから刺されるの
 がみつばちから刺されるの

(同意可)

	【配点】	
その他	1 5	1 10
	2 4	2 1
各4点×14	各6点×3	各2点×13
56点	18点	26点

1 aは、「除」の右下の部分を「示」にしないこと。bは、ある効果を期待した行為の結果、期待される作用のほかにも現れる作用のことである。「主作用」に対するものであるが、一般には有害な作用をさす。cは、手を上げたままの状態になるということである。

2 Aは、予約などを取り消すこと。Bは、「ほめられる」の反対の意味を表すことばになる。「とがめる」とは、悪いことや望ましくないこととして注意したり責めたりすることである。Cは、物事を進んでするさまを表すことばになる。

3 1 大学生たちに○△×をつけてもらった ↓ すると(順接) ↓ 結果は……になった。
 2 ○△×が六対一対三 ↓ つまり(言いかえ) ↓ いやな記憶(×)は三。
 3 判断して行動すると結果が出る ↓ たとえば(例示) ↓ おいしいと思つて食べたら苦かった。
 4 いろいろな人の経験、自分の経験 ↓ あるいは(選択) ↓ おじいちゃんおばあちゃんの経験。

4 ○△×の結果のうち、「×」つまり「いやな記憶」に注目している。「いやな記憶」はふつうなら思い出したくないことなのに、それを覚えていいるということが、矛盾するようなので「おもしろい」と言っているのである。

5 直後で「行動選択をするとき」に「選択肢が減」ることになるからだ、と説明されている。これと同意になるような表現を★よりあとの文中からさがせばよい。「先にも…」の段落に「失敗の経験は、つぎの判断のときにそれをしないために必要なです」とある。

6 ことばとしても知っておくべきではあるが、二つめの□のあとの「失敗することに大きな意味がある」から考えることもできる。さらにそのあとの「失敗しなくては先へ進めません。…最初から成功するなんてほとんどありません」にも注目したい。

7 「前頭連合野でおこなわれる」ことは何か、と考える。ただし、それは「情報や知識」の「全部のものを考えあわせて判断する場」である。二つ前の段落に「前頭連合野がワーキングメモリーのはたらきをはじめたとき」とある。

8 「未来」ということばに注意すると、これより前にも「未来」について書かれたところがあつたことに気づくだろう。直前の段落で、「教育の場」では「たくさんの情報を使って判断しなさい」と教える、と言っていることにも注目してほしい。

9 これも直前の文をさしている。この段落の冒頭にも「後半の三年はすべて実習」とあるので、実習のもつ意味について書かれている部分をぬき出せばよい。

10 —線⑤に対して、「一方」として「マイナスの評価」について説明している部分である。——線⑤の表現に注意せよ、とあるのは、この表現をふまえて書けということだと見ぬき、対比させて書いてほしい。

11 「医学部の実習」についても、「指導者」に「ダメだ」と言われることで「自分の体験」を積み重ねられる、とあつた。ここも、「看護師長さん」に「叱られる」ことよつて「体の記憶」を作つていった、ということが書かれている。つまり、「看護師長さん」も「指導者」だった、と言つているのである。

12 アの「プラスの記憶に転化」は書かれていない。ウは「いろいろなこと」となつていて、本文でとりあげている「いやな記憶」「失敗の経験」「マイナスの評価」とはかぎらないのがよくない。エは、ワーキングメモリーの使い方は学校で教わる、ということは書かれていたが、その教え方の工夫については書かれていなかった。

② 1 aの「野生」は「野性」との使い分けに気を付ける。bは「荷」を「カ」と読むために、ひよつとすると思いつきにくかつたかもしれない。cは「蒸」の左右が「求」ではなく、「水」の左右と同じ形になるようにする。

2 問いの「それがなぜか」は「なぜ晴れが続いたときなのか」である。「なぜ土曜日なのか」は本文中に書かれていないのでぬき出せない。「晴れ」ということばに注目すればIはすぐに見つかる。またその帰結として人手が足りないことも見当がつくはずである。

3 「はちの作業」と「はちみつの仕事」を区別する。「はちの作業」ということばに注目してさがせば、「山ではちの作業をするのはお父さん」とあるのが見つかり、お父さんがしていることをさがせば答えが見つかる。通読時にイメージできていることが望ましい。

4 —線③の近くには理由となるものは書かれていないが、通読時にしっかり読めていれば「ぼく」が刺されるのを恐れていたことが頭に入っているはずである。

5 「せっせ」は(1)にも(3)にもあてはまりそうだが、(1)の一文には、「働きもの」ということばが出てくるので、ここに「せっせ」を入れた方がしっくりくる。「わしわし」は、動作が荒いようすを表す。

6 「……」の部分が意味ありげである。「ぼく」が「はちの作業」をいやがつていることが前提としてふまえられていれば、このときのようにもイメージできたのではないか。

7 アは「はじめての学校」がおかしい。イは「また南にもどつて」がおかしい。少なくともここではまだ南にもどらない。エは「転入するのも気まずい」が少しずれている。本文には「転校するたびにクラスになじむのはやり直し」とあつた。

8 直前の段落の「当然、学校の友達とも……」の段落に書かれている内容を受けて述べたことばである。

9 「アリバイ」は本来、犯行当時現場にいなかったことの証明を意味することばである。ここでは、「ちゃんと働いていないじゃないか」という疑いをもたれたときのために、あらかじめ言ひのそれができるようにしているということである。